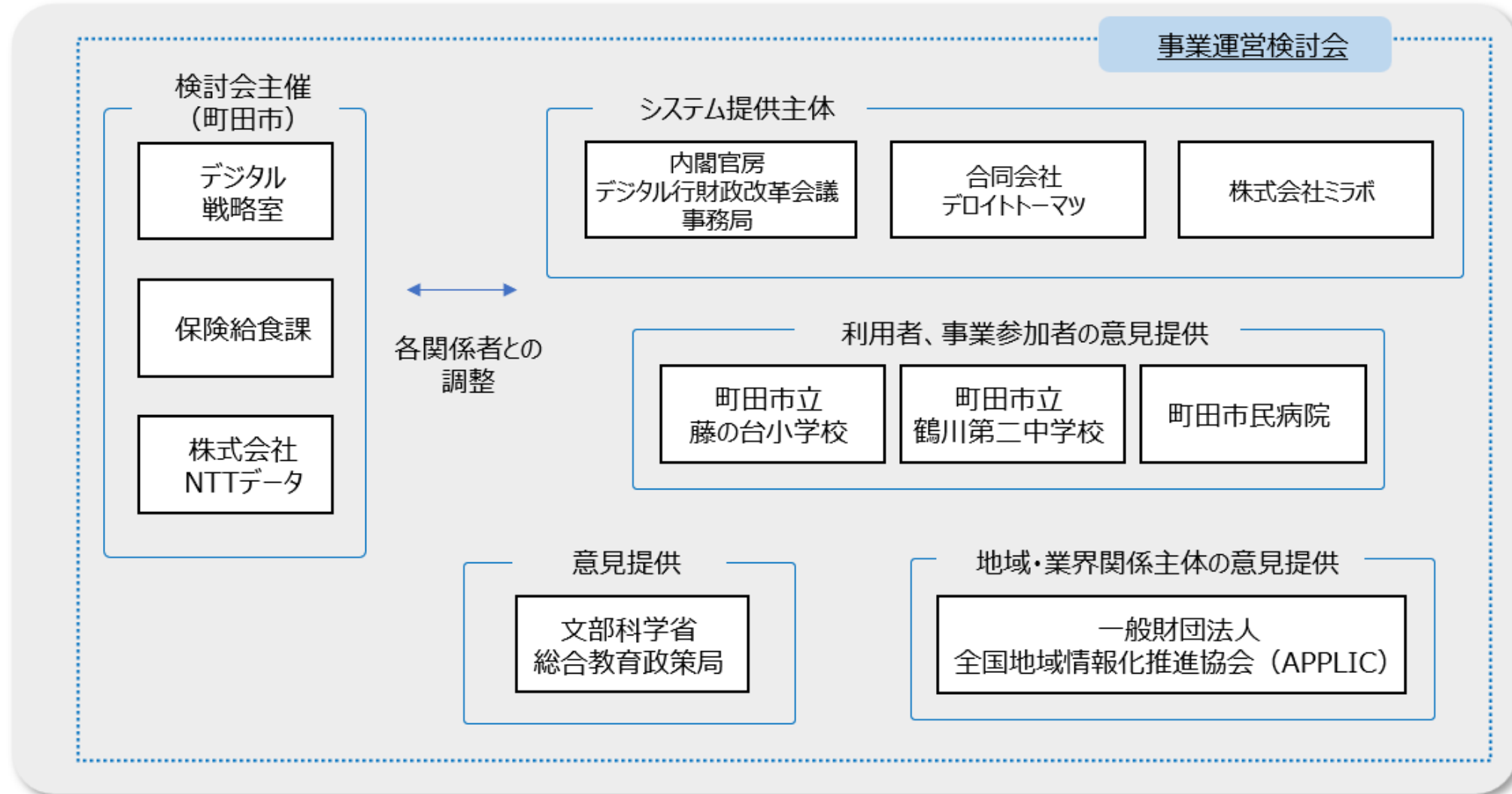


学校保健DX (PMH-WEB)
効果検証／事業運営検討会
第三回 (実証結果報告)

町田市

事業運営検討会の全体像

本検討会は、本実証の進捗確認および課題整理を通じて、学校保健DXの実装モデルの妥当性を確認し、今後の展開方針を共有する場として位置づける。



目次

1. 本日の目的
2. 実証全体像(再掲)
3. 実証の進捗状況
4. 全体結果サマリー(速報)
5. 保護者役結果
6. 学校結果
7. 医療機関の論点
8. アンケート・インタビュー結果
9. 総合論点
10. 次年度に向けた方向性

1. 本日の目的

- 本日の事業運営検討会にて合意したい事項は以下の通りです。
- ・本実証の実施内容および進捗状況を共有する
- ・紙運用・PMH-Web運用の測定結果(速報)を共有する
- ・観測結果を踏まえ、令和8年度以降の本格実装に向けた主要論点を整理する
- ・今後の改善・追加検証事項を確認する

本日のアウトプット
決定事項の確定版資料(本資料)

2. 実証全体像(再掲)

本実証は、現行の「紙運用」と「PMH-Web運用」を同一のシナリオで実施し、
所要時間・負担感・満足度等を比較する。

① 比較の前提(条件統一)

同一の帳票(実際に学校で運用中の様式)を使用

同一の業務範囲・役割(養護教諭／町田市職員／医療機関)で実施

紙とPMH-Webは手順が異なるため、「完了(アウトカム)」を共通の比較単位として
総所要時間を比較する。あわせて、完了に至るプロセスをタスク／工程に分解し、
差分要因を分析する。

② 評価手段

定量:ストップウォッチ計測(所要時間)

定性:ヒアリング／アンケート／インタビューで負担感・満足度等を把握

3. 実証の進捗状況

紙運用測定、PMH-WEB運用測定ともに3/17ですべての実証が完了。

第三回検討会では、確定版ではなく速報ベースでの結果共有と論点整理を行う。

報告書は本日時点のものを未定稿版とし共有するため、確認を頂きたい。

第三回検討会での確認結果を踏まえ、3月中に報告書を取りまとめて提出する想定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6 学校 紙測定 (鶴二中学校様) 16:00~	7
保護者 PMH測定 09:00~17:45						
8	9	10	11 医療機関 PMH測定 14:30~15:30	12 事業運営検討会② 医療機関 PMH測定 13:00~14:00 学校 PMH測定 (鶴二中学校様) 15:30~17:00	13	14
15	16	17 学校 PMH測定 (藤の台小学校様) 14:30~16:00	18 事業運営検討会③	19	20 春分の日	21
報告書作成						
22	23	24	25	26	27	28
報告書レビュー期間						
29	30 最終化	31 予備日				

4. 全体結果サマリー(速報)

保護者役:

健康調査票や問診票の入力で、電子化により有意な手間の削減効果が確認された。

学校:

資料配付のための印刷、封入などにおいて、電子化により有意な手間の削減効果が確認された。

医療機関:

母子保健の情報など診断に資するデータが閲覧できることや、紙の持参忘れ防止などの効果は確認ができたが、学校生活指導管理票などはコミュニケーションツールの役割を持っているため、単純な時間比較はできないということが分かった。

そのため、本実証では、「事務負担・所要時間の軽減効果の検証」に加え、「本格実装に向けた実装モデルの具体化」および「業務フロー課題・現場運用上の留意点の整理」を重視している。

5. 保護者役結果

■ 工程1
 ■ 工程2
 ■ 工程3
 ■ 工程4
 ■ 工程5

保護者結果:本実証条件下では短縮方向の差分が観測

紙運用:有効N=67 PMH-Web運用:有効N=90

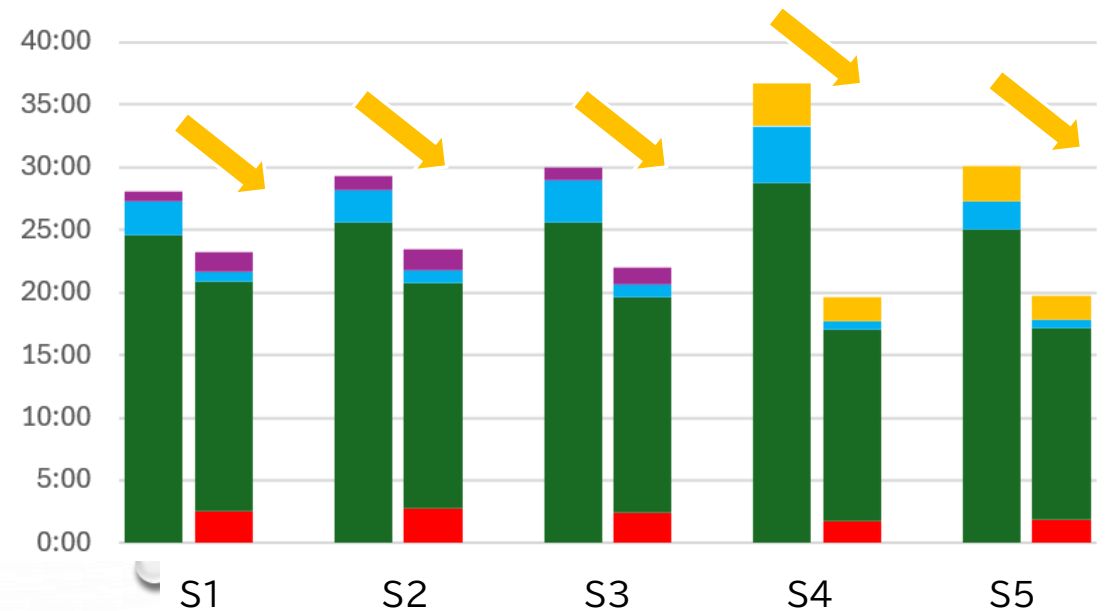
集計に当たっては、上位1件・下位1件を外れ値として除外

平均所要時間は、紙運用よりPMH-Web運用の方が短く、1人当たり平均9分25秒の削減が確認された。

背景として、自己情報表示機能の活用やプレフィルにより、予防接種等の転記負担が軽減されたことが大きい一方で、マイナンバーカード読取、暗証番号入力、認証・遷移の分かりにくさは課題として残った。

工程	内容
1	保護者情報登録(紙運用はタスク無し)
2	保健調査票、問診票の記入・提出
3	受診勧告受け取り・健診結果受け取り
4	受診勧告対応・受診報告提出
5	学校生活管理指導表対応

指標	紙運用	PMH-Web運用	差分 (紙-PMH)	削減率 (差分÷紙)
サンプル数 (N)	67	90	—	—
平均所要時間 (分)	30.90	21.48	9.42	30.5%
中央値 (分)	28.43	21.44	6.99	24.6%



6. 学校結果

学校結果: 配付前準備・回収後整理で効率化を確認

紙運用では、全児童生徒分の帳票の印刷、仕分け、封入、配付、回収後確認・整理が学校側の大きな負担となっていた。

PMH-Web運用では、特に案内発行・配付準備に相当する業務がオンライン化されることで、負荷軽減が見込まれた。また、時間削減に加え、

- ・児童生徒の帳票持ち帰り忘れ
- ・保護者の提出忘れ
- ・回収遅延

といった紙運用特有のリスク低減も定性的効果として確認された。

一方、帳票様式や運用差、確認・差戻し・保管の整理方法については、標準化が必要であることや校務システムに入力・登録した情報の有効活用(連携等)が課題である。

藤の台小学校実測結果:

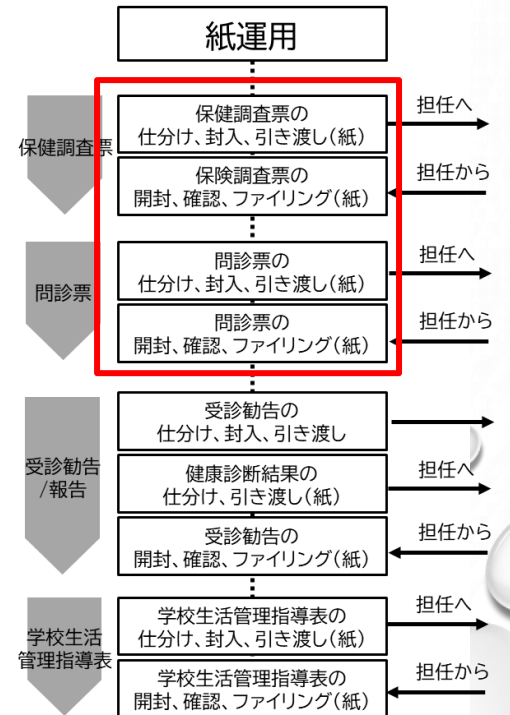
区分	保健調査票 封入・配布	保健調査票 引き渡し	問診票 仕分け・封入・配布
紙	17:00:00	0:00:43	(保健調査表と同封のため計上なし)
PMH	0:00:20	—	0:00:15

区分	合計	削減率
紙	17:00:43	
PMH	0:00:35	99.96%

鶴川第二中学校実測結果:

区分	保健調査票 封入・配布	保健調査票 引き渡し	問診票 仕分け・封入・配布
紙	10:30:00	0:00:35	(保健調査表と同封のため計上なし)
PMH	0:00:18	—	0:00:16

区分	合計	削減率
紙	10:30:35	
PMH	0:00:34	99.91%



7. 医療機関の論点

医療機関結果:時間短縮の単純比較より、成立条件の整理が中心となった。

医療機関では、受診勧告報告書や学校生活管理指導表が、入力作業にとどまらず、診療・説明・文書発行・医療事務を含む業務として運用されている。

特に学校生活管理指導表は、児童・保護者とのやり取りを伴うため、入力時間のみを切り出して一律に比較することは難しい。

また、文書料請求との関係から、医療事務側が「文書が発行された事実」を把握できることも必要との指摘があった。

現行では、電子カルテから紙帳票へ転記する場合と、紙帳票の内容を後から電子カルテへ再入力する場合が併存している。

このため、PMH-Web導入に当たっては、電子カルテとの役割分担や連携方法の整理が必要である。

以上を踏まえ、医療機関については、今年度は課題の明確化を中心成果とし、定量評価についてもKPI指標への落とし込み方を整理する。

8. 保護者アンケート・インタビュー結果

アンケート・インタビュー結果の概要

アンケートは保護者役50名を対象に実施し、48名の回答を受領

全体としては、各設問で5段階評価のうち4評価が中心であり、利用意向・負担軽減実感は概ね高い傾向

一方で、相対的に評価が低かった論点は、

- ・次に何をすべきか分かりにくい
- ・認証・画面遷移が分かりにくい
- ・NFC読取や暗証番号入力に不安がある など

自由記述では、主要論点として

UI/入力 安心/個人情報の扱い 手順/導線 に関する意見が多く挙がっている。

したがって、操作性の改善だけでなく、全体像の説明、現在地表示、差戻し導線、情報共有範囲の明確化が必要である。

(参考) アンケート結果

設問ID	カテゴリ	ラベル	n	平均	上位(4-5)%	下位(1-2)%	分布 (値:人数(%))
Q01	操作性	本人確認手順の分かりやすさ	48	4.02	72.9%	8.3%	2:4(8.3%); 3:9(18.8%); 4:17(35.4%); 5:18(37.5%)
Q02	操作性	連絡先登録の迷いの少なさ	48	4.15	75.0%	6.2%	1:1(2.1%); 2:2(4.2%); 3:9(18.8%); 4:13(27.1%); 5:23(47.9%)
Q03	安心感	本人確認/個人情報の安心感	48	3.56	47.9%	14.6%	1:1(2.1%); 2:6(12.5%); 3:18(37.5%); 4:11(22.9%); 5:12(25.0%)
Q04	操作性	事前準備案内の分かりやすさ	48	3.94	68.8%	10.4%	2:5(10.4%); 3:10(20.8%); 4:16(33.3%); 5:17(35.4%)
Q05	操作性	入力画面構成の理解しやすさ(1)	48	3.83	62.5%	10.4%	1:1(2.1%); 2:4(8.3%); 3:13(27.1%); 4:14(29.2%); 5:16(33.3%)
Q06	操作性	入力画面構成の理解しやすさ(2)	48	3.71	54.2%	6.2%	1:1(2.1%); 2:2(4.2%); 3:19(39.6%); 4:14(29.2%); 5:12(25.0%)
Q07	操作性	エラー/必須チェックの有用性	48	3.94	66.7%	10.4%	1:2(4.2%); 2:3(6.2%); 3:11(22.9%); 4:12(25.0%); 5:20(41.7%)
Q08	操作性	自動入力の便利さ	48	4.48	89.6%	4.2%	1:1(2.1%); 2:1(2.1%); 3:3(6.2%); 4:12(25.0%); 5:31(64.6%)
Q09	負担感	入力～提出のストレスの少なさ	48	3.75	58.3%	10.4%	1:2(4.2%); 2:3(6.2%); 3:15(31.2%); 4:13(27.1%); 5:15(31.2%)
Q10	理解度	健診結果/受診勧告の理解しやすさ	48	3.83	66.7%	10.4%	1:1(2.1%); 2:4(8.3%); 3:11(22.9%); 4:18(37.5%); 5:14(29.2%)
Q11	理解度	受診勧告の次アクション明確さ	48	3.58	47.9%	14.6%	1:1(2.1%); 2:6(12.5%); 3:18(37.5%); 4:10(20.8%); 5:13(27.1%)
Q12	操作性	医療機関QR/同意フローの分かりやすさ	48	4.04	72.9%	8.3%	1:1(2.1%); 2:3(6.2%); 3:9(18.8%); 4:15(31.2%); 5:20(41.7%)
Q13	操作性	受診後の提出手順の分かりやすさ	48	4.21	77.1%	6.2%	1:2(4.2%); 2:1(2.1%); 3:8(16.7%); 4:11(22.9%); 5:26(54.2%)
Q14	安心感	個人情報/健康情報管理の安心感	48	3.58	52.1%	14.6%	2:7(14.6%); 3:16(33.3%); 4:15(31.2%); 5:10(20.8%)
Q15	利用満足度	利用意向	48	4.25	81.2%	4.2%	2:2(4.2%); 3:7(14.6%); 4:16(33.3%); 5:23(47.9%)
Q16	利用満足度	業務負担軽減の実感	48	4.38	79.2%	2.1%	2:1(2.1%); 3:9(18.8%); 4:9(18.8%); 5:29(60.4%)

9. 総合論点

保護者

入力・提出の省力化は確認できた。

一方、認証支援、共有範囲の明確化、重要通知(受診勧告、学校生活管理指導表)の見せ方に課題がある。

学校

配付前準備・回収後整理は大きな改善余地が確認できた。

一方、帳票様式・運用差の標準化が前提となる。

医療機関

単純な時間短縮より、文書料・電子カルテ・医療事務フローを含む制度設計が論点となる。

本実証は、PMH-Webの操作性確認に加え、学校・保護者・医療機関の三者をまたぐ業務フロー全体を対象として、実運用に当たっての前提条件、課題及び整理事項を明確化した点に意義がある。

10. 次年度に向けた方向性

次年度に向けた方向性

優先的に改善・継続検討すべき事項

- ・保護者向け画面における入力支援、本人確認・認証支援、不備修正時の差戻し導線の改善
- ・情報の共有範囲(共有される情報／されない情報)に関する分かりやすい整理・明確化
- ・学校現場における帳票様式及び運用フローの標準化
- ・医療機関における文書料の取扱い、電子カルテとの関係、医療事務を含む運用フローの整理

次年度以降の継続検証事項

- ・医療機関における効果検証指標の再整理
- ・実運用条件下における追加実証
- ・デジタル機器の利用に不慣れな層を含む利用実態の把握
- ・私立学校や歯科医療機関等、今年度実証の対象として含まれていない関係主体への対象拡大の検討

総括

本年度実証の成果は、事務負担・所要時間の軽減が見込まれる領域を確認するとともに、令和8年度以降の本格実装に向けて、制度面・運用面で追加的な整理が必要な論点を切り分けて整理できた点にある。